

佳作

生物とわたしたち

赤坂中学校 上原 悠嗣

私たちが暮らしている地球にはたくさん生物がいます。一言に生物といってもいろんな種類があります。大きく分けると、植物と動物です。この二つは運命共同体のようにお互いに密接しています。そこで、私は二つの場合を考えてみました。一つは、「もし、地球上から植物が一切なくなったらどうなるか。」です。もう一つは、「それによって人間がどんな影響をうけるか。」です。

まず、前者についてですが、食糧としての問題と、地球温暖化の問題が発生します。食糧については、植物を食べる虫や草食動物が絶滅します。それに続いて、今度は虫や草食動物を食べる鳥類や肉食動物が絶滅します。それなら、何も食べなくても生きていける動物なら大丈夫のように思えますが、ここで地球温暖化の問題が浮上します。そもそも、光合成をして酸素をつくってくれる植物がなくなるので、動物の呼吸による二酸化炭素の排出が著しいものになります。すると、酸素が少なくなるだけでなく、地球温暖化も促進されるため、酸欠と気温の上昇によって動物が全滅します。次に後者についてですが、前述の通り、植物がなくなると草食動物や肉食動物が死滅します。人間も例外ではありません。人間

は雑食なので、植物がなくなることでも他の動物と同等かそれ以上に影響がでるはずですが。人間は、植物がなくなっても動物がなくなっても困るという大変弱い生物なのです。

最近ではよく「街の美化活動」と称してゴミ拾い等が行われていますが、同時に殺虫剤や除草剤を無駄にふりまいているという大変悲しいことも行われています。私たちにとって虫も植物も大切な存在のはずです。虫によって野菜や果物を食べることができます。植物なら虫以上に私たちの未来を支えてくれます。それをむやみやたらと殺すのは違います。むしろ、生かしていかなければなりません。植物が植わっているといっても、人間が楽しむための種類しか植えられていません。人間は植物や虫の他にもたくさん生物を支えられて今六十八億にのぼる人口まで発展したのです。地球は人間のものではありません。

では、私たちはこれからどうすればいいのか。虫たちを育てればいいのか、植物を植えればいいのか。いいえ。私たちは見守らなければいけません。一度殺してしまったことは元には戻りません。だからといって再生される必要もありません。私たちはたくさん生物が生活しているのを見守ればいいのか。もちろん、これ以上生物を必要以上に殺してはいけません。しかし、この地球という大きな囲いの中で私たちは生かされているにすぎません。そんな私たちが何かをしたところで、大きすぎる地球の疾患が治るはずがないのです。ただ、私たちが自然に対する謙虚さをもち続けることで未来は大きく変わるはずですが。